

「気がきました。本当にありがとうございます。」と深く感謝されました。

仙台市の復旧作業は迅速で、2班目が到着するころにはほとんどの地域で通水が始まり、予定よりも早く応急給水は終了し、職員は全員無事に帰苦しました。



青山保育園での応急給水作業風景
初日は長蛇の列ができました

第2陣
第2陣は地震が起きてから約2ヵ月後の5月16日から石巻市へ支援活動に向かいました。これは4月7日に起きた大規模余震によって石巻地方で広範囲にわたる断水が生じたため、派遣要請を受けたものでした。

第2陣の派遣では仙台港が復旧して、苫小牧西港から直接仙台港へ向かうことができました。また、部分的ではありますが宿泊施設等が営業を再開していて、派遣の受け入れに協力していただき、現地での生活の拠点とな

りました。

第2陣は苫小牧市、札幌市、函館市の3市合同で応急給水作業を行いました。

第1陣と同じく、持って行った給水タンクに拠点である石巻地方広域水道企業団で水を補給し、給水作業場所まで移動して給水を行いました。

第2陣は腐敗水産物の分別作業場や水産加工場への給水が主な業務となりました。これは作業場内の清掃や作業員のカップ類を洗うために使用するもので、飲用水ではありませんが衛生上とても大事なものです。作業場は生ものを扱う場所、5月という気温の上がる時期も重なり腐敗臭がひどく、衛生面のことを考えると一刻も早く清潔な水が必要だと考えられました。この水は飲用ではないので、水槽に直接給水するかたちをとりました。



分別作業場への給水風景
直接水槽へ給水しています

その他にも避難所になっているホテ

ルの受水槽への給水や被災者支援で客室や食事を提供している大型フェリーへの給水、工場のタンクへの給水もありました。

第1陣と違い、受水槽やフェリー等の給水は高い位置となるため、小型のポンプを持参して給水を行いました。



フェリーへの給水作業風景
高い所への給水なので小型ポンプを使用しました

石巻市は、第1陣が派遣された仙台市よりも被害が深刻で、5月になって依然として復興作業は進んでいない状況でした。海岸近辺では道路を走ることも困難な場所が多く、日常的にまだまだ危険が潜んでいる状態でした。また、道路に埋設されている水道管が地震の影響で地表に露出したり、管に亀裂が入り漏水している箇所も数件見かけました。これはほんの一部で、おそらく市内全域で漏水していて、それが断水の原因になっていることは明らかであり、地震が引き起こす力の凄



破損して漏水した水道管
この状態では安定した水の供給はできません

まじさを改めて実感した現場でした。
5月22日からの2班目も1班目との引継後、同様の作業を行い、その後5月30日までの派遣期間が終わり全員無事に帰苦しました。
派遣を終えて
今回の災害派遣を通してライフラインである水道の重要性を再確認すると同時に、全国から集まった各都市の災害復旧の応援を見て、日本国内における水道事業者の強いつながりを感じました。

苫小牧市水道事業としての約1ヵ月間の派遣はひとまず終わりましたが、依然として被災地は復興作業が続いている状況です。これからも復興のための協力は惜しまず、苫小牧市水道事業としても全力で被災地をサポートし、一日も早い復興に少しでも協力していきたいと考えています。